

来日外国人旅行者に対応したツアー開発による湖国グリーンツーリズム推進事業 (滋賀県全域)

近年滋賀県(湖国)に増加している外国人の中で、特に宿泊者の多い台湾からの旅行者を対象とした計画をモデルとして、高島・湖北・近江八幡の琵琶湖などの地域資源を連携させた滞在型グリーンツーリズムを開発し、そのメッカとなることで地域産業を活性化させる。



平成21年度の主な取組

- ① モデル地域における、来日外国人を対象とした観光資源データベースの作成、および地域リーダーの育成。
- ② 台湾を事例とした、湖国グリーンツーリズムのニーズ調査・社会実験、およびその評価分析。
- ③ モデル地域の観光資源をベースとした広域連携による湖国モデルコースの開発・社会実験、及びその事業化に向けた推進体制の整備。

平成22年度以降の展開

評価分析に基づき、ツアーを開発・拡充し、モデルとした台湾へのプロモーション活動・ツアー会社の招請活動を行うとともに、ホームページによる多言語の情報発信を行う。その後、韓国・中国などアジアへのプロモーション活動を実施するとともに、欧米を対象としたモデルコースも開発する。

歴史・景観・まちづくりネットワーク構築 ～地域資産の活用とそのノウハウの共有～ (滋賀県 彦根市、近江八幡市、東近江市、米原市、多賀町)

街道「中山道」沿いに位置する複数の地域で、民・官・産・学と子どもたちが一体となり、それぞれの地域の文化・資源を掘り起こすネットワークを構築し、活用・ノウハウの共有を行うとともに地域外に情報発信していくことで、地域住民が自らの地域への誇りの回復と、域内外の交流人口を拡大を図る。



中山道食文化の提供



地域を結ぶサイクルトレイン



サロンでの意見交換で生まれた「しまさこにゃん」

平成21年度の主な取組

- ① 中山道食文化の調査、及びそれに基づく薬膳料理などの郷土料理の紹介・提供・開発。
- ② サロンや談話室を開催し、地域内・地域間ネットワークを構築し、地域活性化のノウハウなどを共有。
- ③ サイクルトレイン(近江鉄道に自転車を乗せて移動)やウォーキングによる地域資源巡りをコーディネートし、地域間の移動による楽しさを提供。

平成22年度以降の展開

中山道・近江鉄道沿線地域にネットワークを拡大し、より魅力ある地域ネットワークおよび地域資源の活用により地域ブランドを確立させ、観光・イベント事業との融合・相乗効果によって集客・滞在人口を増加させ、地域一帯を活性化させる。

琵琶湖と「港町」・「宿場町」・「城下町」が融合した大津市のまちなかをフィールドとし、子供をターゲットとした独自のエコ観光ツアーにより、まちなかに人の賑わいを取り戻し、地域商業を活性化させ、地域社会の持続的な発展につなげていく。



湖魚を知るツアー



曳山のプラモデル化



三井寺で写経



造り酒屋
酒粕料理キット

体験
プログラム
例

平成21年度の主な取組

- ① 大津の自然環境と歴史・文化を体験する子供向けツアーのプログラム作成。
- ② 琵琶湖の水、老舗の技などを学べるエコキットの開発・製作。
- ③ 子供向けツアープログラムとエコキットを検証するモニタリングツアーの実施。

平成22年度以降の展開

全国の小中学校への営業や京阪神の子供に向けたPR活動を実施し、エコキッズツアーを本格稼働させるとともに、同伴する大人も子供と一緒に楽しめるプログラムや、ツアー中の大人用別ルートツアーを開発し、子供と大人の両方で楽しめる大津独自の観光ツアーを提案。

琵琶湖・家棟川流域環境元気再生事業 ～学び、参加、支え合い～

(やなむね)

(滋賀県 野洲市)

山・河・湖といった連続性ある豊富な自然環境を見つめ直し、その保全・育成過程に参加し、資源として活用することにより、地域の人々が地域の自然環境に誇りを持ち、環境保全と地域経済活性化の両立可能な事業モデルの構築を図る。



子どもに櫓の漕ぎかたを教えているところ

エコ遊覧



平成21年度の主な取組

- ① 船頭さんが昔の水辺環境についての語り部としてエコガイドを行う「エコ遊覧」の推進。
- ② 湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻し、「魚のゆりかご水田米」として米のブランド化を目指す。
- ③ 里山保全を目指し、市民参加で植樹、間伐、里山散策ができる登山道の整備などを行う「里山プロムナード」づくり。

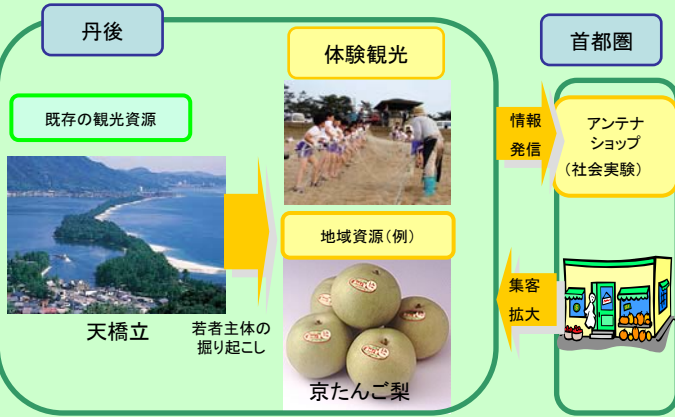
平成22年度以降の展開

体験型環境学習を引き続き実施。地域の農林魚業者に携わる者が参加者に対して地元の良さを伝え、地域内外の参加者とともに付加価値ある農林水産物を育て、お互い支えあう仕組みを確立する。

丹後の持続可能な地域資源の発掘とその活用

(京都府 宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町)

丹後半島の豊かな自然・農林水産物等の地域資源を若者が活動主体となって再認識・発掘し、京都市内周辺の農山漁村体験というニーズに対応した旅行パッケージ商品等の開発や情報発信を積極的に行うことにより、観光・交流人口の増加などを図り、持続可能な地域づくり・人づくりを目指す。



地引網体験

平成21年度の主な取組

- ① 地域の魅力・資源の再認識・発見、価値化を促進するセミナー等の開催
- ② 発見した地域資源を活かした体験プログラム・旅行パッケージ商品の開発
- ③ 東京におけるアンテナショップ開設の実証実験と修学旅行の誘致活動

平成22年度以降の展開

更なる魅力的な旅行パッケージ商品等の開発・提供により修学旅行を本格的に受け入れるとともに、東京でのアンテナショップ常設等により情報発信を強化し、魅力・認知度を高め、丹後半島の活性化、持続可能な地域づくり・人づくりを図る。

京都の嵯峨嵐山^(にじゅうしせつき)ならではの、二十四節気^(にじゅうしせつき)の自然や生活の知恵を活用した集客交流事業の創出と、先人の暮らし方を地域における低炭素社会具現化のゲートウェイとする実証実験

(京都府 京都市、亀岡市)

嵯峨嵐山の「二十四節気」の季節の移ろいとともにも培われた暮らしをもとに、「食」、「花」、「しつらえ」、「暮らしの知恵」、「行事」をテーマとした交流プログラムを作成・提供し、春・秋に集中する観光集客の一年を通じた平準化及び低炭素社会の具現化を図る。



平成21年度の主な取組

- ① 二十四節気^(にじゅうしせつき)の自然・暮らしの知恵に係る文献・ヒアリング調査の実施
- ② 調査結果を基に、5部門120の交流プログラムを作成、集客実証実験を実施
- ③ 環境に配慮した二十四節気^(にじゅうしせつき)の暮らし、交流プログラムを発信

平成22年度以降の展開

平成21年度に作成した交流プログラムを集客交流事業として本格展開し、年間を通じた集客の平準化を実現し、地域の活力の再生と低炭素社会具現化のモデルとして、京都府内の他の地域への展開を図る。

地域資源「時代劇」で再生する「映画のまち太秦」 ～次世代に伝える地域の技術～ (うずまさ) (京都府 京都市)

“日本のハリウッド”として長く日本映画の牽引役と位置付けられてきた京都・太秦地区の骨格を形成する「時代劇」を核に、次代の映像産業を担う人材の育成や地域ブランドの再構築による地域再生を図ると共に、公共交通利用への転換による環境に優しい観光都市づくりを推進する。



平成21年度の主な取組

- ① 子供・学生によるエコ教育映画の製作と情報発信
- ② 「時代劇検定」の試行、広報展開
- ③ 太秦地域の寺社・商店街・集客施設等を「電車&歩く」回遊ルートの創出

平成22年度以降の展開

子供達による継続的な映画製作、「時代劇検定」の実施、「時代劇」関連商品の開発等を通じて、次代の映像産業を担う人材育成、地域の資源「時代劇」で再生する「映画まち太秦」の実現、公共交通利用への転換の推進による環境再生を目指す。

門真元気再生事業 ～市民参加 アートによるまちづくり～

(大阪府 門真市)

急速な少子高齢化や駅前のにぎわい喪失が懸念される大都市近郊地域において、若手アーティストが集まりつつある地域特性を活かし、アートとエコをキーワードとした商店街の利活用策を地域が一体となって促進することにより、サステナブルな地域の再活性化を目指す。



駅前広場で開催する
ラブリーフエスタ
(毎年10月)



商店街

空き店舗に
アート&エコを取り入れ
再生を図る

平成21年度の主な取組

- ① 商店街の空き店舗を活用したギャラリー・アトリエ・アートスクールを開設。住民参加による、現代アートとエコを中心にしたまちづくりを推進。
- ② 自治体、商工会議所、企業等が中心となり、まちの持続的活性化を担うタウンマネージャーの育成。

平成22年度以降の展開

アートやエコをテーマとした芸術家・建築家による作品展覧会等をまちなかで行う門真ビエンナーレ(仮称)の開催に向けた取組を推進していくとともに、まちづくり会社を設立し、タウンマネージャーを中心として地域が持続的にまちづくりに取り組める体制づくりを行う。

泉佐野「長者伝説」で新商品開発・CM制作及びIT活用による動画発信プロジェクト (大阪府 泉佐野市)

江戸時代に豪商が廻船業で莫大な利益を得、事業ネットワークの全国展開を図ってきたという「長者伝説」をコンセプトに、農水産品などの地域資源を活用した魅力ある商品の開発や、ITを活用した販売戦略・ブランド開発を行うことで、関西国際空港を利用する多くの外国人集客・もてなし力を強化し、まちなかの再生を図る。



「長者伝説」展示のあるふるさと町屋館



商店街での取組
プレミアム商品(小判型)



平成21年度の主な取組

- ① シャコなどの地域資源を活用した新商品・新企画の開発、ブランドの開発。
- ② ITを活用した商店街の動画サイトを制作し、国内外へ向け情報発信。
- ③ 外国人観光客の増加に対応した、商店街での接客マニュアルの制作、国際化対応の促進。

平成22年度以降の展開

平成21年度に開発した試作品を商品化の上、情報発信を行うことで、商店街の魅力を高めると共に、空き店舗を活用した新しいビジネスモデルを確立させる。

ELAN プロジェクト —地域に残されたダム予定地の活用による「新しい里山との共生」— (大阪府 箕面市)

事業の休止によりダム予定地が残されることになった都市近郊の里山において、これを逆にチャンスと捉え、“日本三大昆虫の里”という地域資源を活かした里山体験や昆虫採集ツアーなどを実施することにより、都市と地域が交流し自然と共生する「とどろみの里・昆虫の里」として持続的に地域を支える仕組みづくりを行う。



昆虫が多く生息する
里山を活かした地域づくり
プログラム



平成21年度の主な取組

- ① ダム事業予定地の里山等の自然を活かした野外活動プログラムの企画・実施。
- ② 昆虫採集・探索ツアーの企画、昆虫市場創設に向けた市場調査等を実施し、「昆虫の里」の地域ブランドづくりを推進。
- ③ 里山利用のルールづくり・環境教育プログラム等、持続的な里山管理方策を検証

平成22年度以降の展開

平成21年度に実施し里山体験プログラムを、周辺住民が主体的に参画するプログラムへと発展させる。また、里山環境の維持管理の仕組みを構築するとともに、新たな地域ブランドの情報発信や、昆虫や地元産品を提供する「昆虫市場」を活用した具体的な事業の準備を行う。

「顔の見える」地域再生コミュニティ構築によるアクティブセーフティネットづくり (大阪府 大阪市南部)

地域で働き、暮らし、地域社会に参画することを願いながら、その実現が困難な人たちが多くいる中で、新しい「顔の見えるネットワーク」づくりによる雇用創出モデルを実現してきた民間主体の取組みの充実・拡大を図ることで、雇用と就労を地域で支え、地域住民の繋がりを強化する仕組みづくりによる地域活性化を目指す。



職場体験
プログラム



コミュニティ
カフェ
(イメージ)

平成21年度の主な取組

- ① 地域の中小企業が中心となり、若者に対して課題解決力の養成と「顔の見えるネットワーク」での雇用マッチングを図る就労支援事業の実施。
- ② 参加者間のネットワークづくりによる地域活性化を目的とした「コミュニティ露店」「コミュニティカフェ」など四天王寺周辺地域の特色を活かしたイベント・新名物づくり

平成22年度以降の展開

「ネットワーク型就労支援」事業を地域全体の取組みとして根付かせ、課題解決型の職業訓練メソッドを確立する。また、就労支援事業と連携し、四天王寺周辺地域をコアとする持続可能な地域再生プロジェクトの継続的な実施を行う。

音楽が育む！ベッドタウンならではの文化力・教育力創造プロジェクト (大阪府 高槻市)

近年、「オールドタウン化」しつつある近郊都市において、都市の個性を生かしたまちづくりを行うため、地域住民のボランティア活動によって地道に継続されてきた音楽イベントを地域資源とし、音楽教育の拡充・展開を図ることにより次代を担う若者を育成するなど、音楽を核とした多世代が交流する「高槻スタイル」を地域に定着させる。



演奏会



ワークショップ



『高槻ジャズストリート』

平成21年度の主な取組

- ① 児童が地域ミュージシャンとの演奏が体験できる音楽ワークショップの開催
- ② 音楽活動に取り組む青少年の活動発表の場を地域で提供する実験イベントの開催。(音楽活動コーディネート実験)
- ③ 観光協会等と連携し、「音楽のまち高槻」の情報発信を行うPRコンサートの実施

平成22年度以降の展開

平成21年度に準備を進めた「音楽活動コーディネート」のまちなかでの本格導入を図る。また、「子どもの音楽教育」の通年化や地域資源と音楽を組み合わせた「まちなか観光ツアー」を推進することにより、「音楽のまち高槻」のブランド価値向上を図る。

島内空き家のゲストハウス化プロジェクト — 漁村滞在型観光を通じた離島振興 — (兵庫県 姫路市・家島地区)

姫路城などの観光に訪れる外国人観光客ターゲットに、家島(瀬戸内海の離島)において日本の伝統的な漁村文化が体験できる、空き家を活用した漁村滞在型観光の実証実験やツアー商品の開発・事業化を行い、来訪者参加型の環境保全活動を含む滞在型観光を定着させる。

家島

姫路を訪れる多くの
外国人観光客



日本の
原風景
が残る
家島に
誘導



外国人モニターツアー

平成21年度の主な取組

- ① 漁村滞在型観光の展開を図るため、地域の強みとなる資源を洗い出すための調査。
- ② OJT研修などにより、外国人観光客向け漁村滞在型観光をマネジメントできる人材を育成。
- ③ ツアー商品の開発のため、外国人観光客を対象に、空き家や漁業を活かした漁村滞在型のモニターツアーを実施し、ニーズや評価を把握。

平成22年度以降の展開

平成21年度に実施したモニターツアーの実施結果から、観光客のニーズや評価を漁村滞在型観光に反映させ、本格展開することにより持続可能な観光事業に発展させる。また、充実した観光プランや環境保全活動をマネジメントする人材を継続的に育成し、雇用の創出につなげる。

柳田國男生誕地福崎発民俗学を旅のツールとする「旅の学校フォークロアン講座」と「もちむぎぱすた」のまちづくり (兵庫県 神崎郡福崎町・辻川地区)

京阪神のアクティブシニアなどをターゲットに、地元の偉人にちなんだ民俗学講座の実施や、特産品であるもち麦を使用した「もちむぎぱすた」などによるもちむぎ食の振興に取り組み、町全体で食と文化の地域ブランドの確立を目指す。

もちむぎを使用した
ざる麺



保存されている
柳田國男の生家

平成21年度の主な取組

- ① 「もちむぎぱすた」などもち麦の開発と販路拡大による売上向上及び「もちむぎぱすたの町」のブランド確立。
- ② 「旅の学校フォークロアン講座」の開催と柳田國男、民俗学を「縁」とした地域連携の創出。
- ③ ボランティアガイド、語り部の会などと連携し、地域の観光課題をビジネス手法で解決するコミュニティビジネスの創出。

平成22年度以降の展開

「もちむぎぱすた」スタンプラリーの「食」イベントとしての定着や「旅の学校フォークロアン講座」の継続などにより地域ブランドの確立を図る。また、観光課題をはじめとし、地域の課題をコミュニティビジネスの手法を用いて解決するビジネスモデルを具体化する。

負担が重くのしかかる、かつての花形施設(ロッジなど)を活用した集客交流事業
「バーチャル田舎生活・奥米地ルーラルライフ倶楽部」 (兵庫県 養父市奥米地)

廃校・ロッジなどの施設を地域住民中心の運営体制に見直し、都会の団塊世代を対象に田舎暮らし体験・住民との交流を行える施設として再生させるとともに、ほたるの住む清流を守る「奥米地」の米などの農産物をブランド化を推進することにより、中山間地域における老朽施設利活用による地域再生モデルを目指す。

体験ログハウス ゆら →



←奥米地での田舎暮らし体験

平成21年度の主な取組

- ① 1週間の田舎暮らし体験を提供し、住民との交流を行う会員制「奥米地ルーラルライフ倶楽部」の開発と実証実験、体制の確立。
- ② 「奥米地ほたる舞(米)」のブランド確立及びそれに伴う加工品開発及び販路開拓。

平成22年度以降の展開

「奥米地ルーラルライフ倶楽部」は、平成22年度中に600名会員獲得を目指し、田舎暮らし(バーチャル居住)や「奥米地ほたる舞(米)」の見込み客を囲い込みを図る。田植えイベントなどを実施し、神戸市内高級食材スーパーなどへの販売ルートを整え、物販事業を確立する。

シニアが主役の地域資源を活用したコミュニティの創出モデル事業 (奈良県 高取町)

城下町、武家屋敷、町家が一本道で結ばれている全国でも例のない景観と地域のシニア住民がこれまで培ってきた経験・知恵・技術・人的ネットワーク等を活かし、シニア主体の持続的な観光集客事業に取り組むことにより、年間を通じて魅力溢れる観光交流地域を創出する。



城下町で開催される「たかとり城まつり」



商店や個人が街並み沿いに雛人形を公開する「町家の雛めぐり」

平成21年度の主な取組

- ① 高取町土佐街並み地域一帯を菜の花回廊にし、花による美しい街並みを創出。
- ② 観光交流人口の拡大に向けて、「町家の雛めぐり」等、街並みを利用した四季折々のイベントを開催。
- ③ 地域住民を対象とした講演会を開催し、シニア住民の積極的な社会参加を促進。

平成22年度以降の展開

観光交流人口の拡大に努めるとともに、インターネット上に「バーチャル土佐街なみ」を立ち上げ、インターネットによる物産販売や二地域居住・移住人口増加のための基盤を構築する。

「観光振興」による伝建地区今井町の持続的再生プロジェクト

(かしはら)
奈良県 橿原市今井町

高齢化による担い手不足が進む重要伝統的建造物群保存地区(伝建地区)において、夜間観光プランの充実や、町屋の用途拡大に地域一体となって取り組むことにより、「滞在型観光」、「地域住民の生活」、「町家・街並み維持のための資金運営」を持続的に両立させる新たな地域活性化のモデルを構築する。



燈花会による夜間の滞在型観光の促進



町家での体験観光プログラム

平成21年度の主な取組

- ① 町家・街並みを活用した飲食店や宿泊施設など、今井町版滞在型観光メニューを開発し、効果検証を実施。
- ② 町家の用途及び利用対象領域を拡大し、町家利用件数を増加。
- ③ 伝建地区今井町の自立運営を担う合同会社設立に向けた検討。

平成22年度以降の展開

平成21年度の合同会社設立に向けた検討を踏まえ、伝建地区今井町まちづくり会社を設立し、事業展開を行うことで、伝建地区今井町が自立的に運営される仕組みを構築する。

「山のエコ学校」開校！～都市域との連携による山村の活性化～

(奈良県 東吉野村)

「環境」「ひと」「お金」を循環させ、山村と都市がお互いに問題解決を行う場として、森林の維持、体験学習、林業資源の商品化等をトータルで行う「山のエコ学校」を企画・試行実施し、豊かな森林資源である吉野林業の再生による、持続可能な山村づくりの実現を図る。



「育てる」「守る」
森林維持のための森林・林業の概況調査



「学ぶ」「遊ぶ」
体験モニタープログラム(イメージ)

「山のエコ学校」

「儲ける」

都市との連携・交流

環境モデル都市(大阪府堺市)

木材の余材を利用した製品づくり

平成21年度の主な取組

- ① 村の森林を守るため、アドプト制度※についての企画・検討、試行実施を行う。
- ② 都市部の住民を対象に、林業体験等ができる体験モニタープログラムを実施する。
- ③ 村の資源を使った事業構築のための調査、試作商品の実験販売等を実施する。

※アドプト制度とは、行政が、特定の公共財(道路、公園、河川など)について、市民や民間業者と定期的に美化活動を行うよう契約する制度のこと。

平成22年度以降の展開

平成21年度の実施を踏まえ、「山のエコ学校」を本格実施し、都市部との連携による山村の活性化、森林資源を活かした持続可能な山村づくりを目指す。

「食育のまち紀の川市」～華岡青洲の生誕地から食育のまちづくりを発信～

(和歌山県 紀の川市)

県下随一の農業生産、医聖・華岡青洲の生誕地という地域資源を活かし、医・食・観光の連携に市民が一体となって取り組むことで、「食育のまち」としての地域ブランドを定着させ、食育・健康づくりのメッカとして地域活性化を目指す。



食育メニューの一例
(健康バイキング)

青洲の里(春林軒)



農業体験プログラム

平成21年度の主な取組

- ① 食育メニューの開発、食育料理コンテストの開催等を通じ、「青洲の里」入込客の増加を図る。
- ② 教育素材(紙芝居、カルタ等)の制作、シンポジウムの開催による食育啓発活動。
- ③ 食育・健康づくりを目的とした宿泊型体験プログラムの開発・実施。

平成22年度以降の展開

平成21年度に開発した食育メニュー、教育素材、体験プログラム等の本格運用によって「食育のまち」ブランドを確立させ、全国に向けて発信することで他市町村との交流促進を図り、「食育研修会」等の事業化や「青洲の里」再建など、ビジネスチャンスの拡大及び地域再生の推進に取り組む。

林農複合！有機の里づくりプロジェクト

(和歌山県 古座川町)

良質な古座川材の間伐材を活用し、有機農産物の付加価値向上を図るなど、林業と農業の複合形態を探究し、新たな生産・販売スタイルの確立を目指す。また、定住者支援人材の育成・充実などにより定住者増加を図り、地域活力の創造を推進する。



間伐材をチップ化し有機農業に利用



古座川の有機農産物と加工品

平成21年度の主な取組

- ① 間伐材・チップ等を土壌に利用し、付加価値のある有機農産物を生産。
- ② 有機農産物に対する消費意向調査の実施。生産物の実験販売及び販路拡大。
- ③ 定住希望者を支援するため、里親・定住コンシェルジェ養成プログラムを実施。

平成22年度以降の展開

農林業者や圃場を確保・整備し、有機農産物の生産・販売を本格展開する。農林業の担い手となる定住者の増加に取り組むとともに、農家レストランや農村生活を体感できる民宿など農産物の提供機会を開拓する。